



令和 6年 1月10日
和歌山市立西和佐幼稚園
園 長 高石 知都

園だより 1月号

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願い致します

2024年、新しい年がスタートしました。お正月はどのように過ごされたでしょうか。年末年始をご家庭でゆったりと過ごすことは、子供たちにとっては、普段とは違った特別な時間だったのではないかと思います。

今日から幼稚園が始まりました。冬の自然に触れながら、今まで通り子供たちが楽しいことを見つけ、夢中になって遊び込めることが出来るよう取り組んでいきたいと考えています。

3学期は、5歳児にとっては最後の園生活になります。3歳児、4歳児にとっては進級する前の大切な学期です。短い3学期ですが、一人一人が自分の力を十分発揮できるように、意欲をもって遊びや活動に取り組めるように、職員一同、努めていきたいと思っています。

今学期も保護者の皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。

◎鏡開き

正月の間、年神様が宿る場であった鏡餅を割り、無病息災を願いながら、お雑煮やおしるこ、ぜんざいなどにし
て食べることを鏡開きといいます。鏡餅の鏡とは、お餅の丸い形が昔の銅鏡に似ているから。お餅をお供えし、開き、食べることで「1年を幸せに過ごすための力を授けてもらう」という意味があるそうです。

鏡餅は、包丁を使わず、手や木づちなどで餅を割ります。これは、年神様との縁が切れないように、また刃物で切ることを嫌っていたとも言われています。鏡開きは、毎年1月11日に行います。(地域によって違います)これから1年間、家庭円満を願いながら、お餅のかけらも全て食べるのが良いとされています。園でも、子供達に鏡開きの由来をお話します。

今年度は、四季折々の日本の行事のいわれなどは、各クラスで、また時には全クラスで話す機会をもっています。それらに込められている人々の願いに、少しでも興味関心をもってもらいたいと考えています。

年神様とは・・・元旦に家々に新年の幸せをもたらすために高い山から降りてくる神様が「年神様」であり、「正月様」「歳徳神(としとくじん)」とも呼ばれているそうです。昔の人は祖先の霊が田の神や山の神になり、正月には年神となって、子孫の繁栄を見守ってくれているのだと考えていたそうです。



はじめての行事絵本より一部抜粋

○きく組のアルバム写真撮影を1月11日(木)に予定しています。また、16日(火)を予備日にしています。よろしくお願いいたします。

○自園評価についてのアンケート用紙を配布させていただいています。1月15日(月)までに、記入してご提出ください。よろしくお願いいたします。

○1月19日(金)に西和佐保育所さんと交流をします。以前、保育所さんが小学校にきた際に立ち寄ってくれたことがあり、交流をしたいと考えていました。2学期は、小学校との交流が多かったため、日程が合わずに3学期になってしまいました。今回は、きく組が歩いて保育所さんを訪問し、一緒に遊ばせていただきます。昨年度は出来なかった地域との交流などを、少しずつ精選しながら出来るようになればと考えています。

元気に始業式を迎えました！！

3学期 始業式
皆さん 園長先生のお話をとても静かに聞きました



おうちの方々が土あげしてくれた築山で
「山 高くてのぼれやんわ！！」

久しぶりの 友達との再会
「ころがしドッジしよう！」
「いくでー」

